

労働時間の延長は、労働者の健康と生産性を損なうものである。労働者は、労働時間の延長によって、身体的な疲労と精神的なストレスを経験する。これは、労働者の生産性を低下させ、長期的には労働力の質を損なう可能性がある。労働時間の延長は、労働者の生活の質を低下させる。労働者は、労働時間の延長によって、家庭生活や余暇の時間を減少させる。これは、労働者の生活の質を低下させ、労働者の健康と幸福に悪影響を及ぼす可能性がある。労働時間の延長は、労働者の健康と安全を脅かす。労働者は、労働時間の延長によって、身体的な疲労と精神的なストレスを経験する。これは、労働者の健康と安全を脅かし、労働者の健康と安全を損なう可能性がある。労働時間の延長は、労働者の健康と安全を脅かす。労働者は、労働時間の延長によって、身体的な疲労と精神的なストレスを経験する。これは、労働者の健康と安全を脅かし、労働者の健康と安全を損なう可能性がある。労働時間の延長は、労働者の健康と安全を脅かす。労働者は、労働時間の延長によって、身体的な疲労と精神的なストレスを経験する。これは、労働者の健康と安全を脅かし、労働者の健康と安全を損なう可能性がある。

側の要求に合致せしめようとしたのである。就業時間制限令の実施は一應の限界を設けた程度であり、それ自身尙不十分な點が存在し、且又賃金との關聯において十二分の考慮を要する點が含まれてゐるとは云へ、労働力の磨滅を防止することに與つて力があるようであるが、それにも拘らずなほ、その法適用範圍が機械製造業、船舶車輛製造業、器具製造業、金屬品製造業、金屬精鍊業の五部門のみに限定され、その他の産業部門には適用されてゐないところに當面の労働問題が伏在してゐるのである。それは非適用産業部門においては労働時間が容赦なく延長され、労働の強化が行はれてゐるからである。そしてその場合、労働時間の延長は労働力の配置の不合理から来る労働力不足に對應してゐると同時に、賃金の低劣がしばしば労働時間の延長を齎らす原因となつてゐることを忘れてはならない。だから、生産力の擴充がより高度に要請されればされる程、工場就業時間制限令の非適用工場にして時局に關係する工場にあつては個別資本の立場と労働者側の立場の夫々から労働時間の延長が要求され、不可避免的に時間が延長され